



第4章 地域歴史遺産を活用できる人材の育成

井上, 舞
河島, 真
木村, 修二
横山, 朋子

(Citation)

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 16(平成29年度事業報告書):46-50

(Issue Date)

2018-03-16

(Resource Type)

report part

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81010245>



第4章

地域歴史遺産を活用できる人材の育成

地域歴史遺産の活用をはかるリーダー養成教育プログラム

人文学研究科地域連携センターでは、2004年度から2006年度まで、工学部建築学科などと協力しつつ、文部科学省の支援をうけ、「地域歴史遺産を活用できる地域リーダー」の育成を目的とする学生教育プログラムの開発に取り組んできた（文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム）。この事業によって開発された教育プログラムが、2007年のから文学部と大学院人文学研究科の正式科目として採用され、とくに人文学研究科では、「地域歴史遺産活用研究」「地域歴史遺産活用演習」（前期課程）と「地域歴史遺産活用企画演習」（後期課程）の3科目が、研究科内の「選択必須共通科目」として位置づけられることになった。地域連携センターでは、2007年度来、これら3つの科目の授業内容と素材を提供している。

3科目のうち、「地域歴史遺産活用研究」（学部講義名は地域歴史遺産保全活用基礎論A・B）は、地域歴史遺産の現状と課題を把握し、その活用のための基礎的知識と能力をつける入門講義である。また「地域歴史遺産活用演習」は、地域歴史遺産の分類・整理・解説・展示内容などの実践的方法を学び取る専門的演習である。さらに「地域歴史遺産活用企画演習」は、その活用のための企画展示等を自治体関係者や地域住民と一緒に企画考案するような実践的演習である。

専門コースの学生・院生は、この3つの講義・

演習をすべて履修し、専門外コースの学生・院生はまず「地域歴史遺産活用演習」を取得し、自分自身の興味にしたがって「地域歴史遺産活用企画演習」を履修することが望ましいと指導された。以下、10年度目に入った各授業、演習の中身の概要について記す。なお3つの講義のうち、「地域歴史遺産保全活用基礎論A」は、博物館科目の「博物館資料論」としても開講された。

1. 地域歴史遺産活用研究（学部向けは「地域歴史遺産保全活用基礎論A」（前期／第1・2クォーター）・「地域歴史遺産保全活用基礎論B」（後期／第3・4クォーター）

〈前期第1部、第1クォーター〉地域歴史遺産論（1）資料論

いずれの授業も、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター編『「地域歴史遺産」の可能性』（岩田書院、2013年）をテキストとし、以下の内容で実施した。

〈前期第1部・第1Q〉地域歴史遺産論（1）資料論

① 4/10「序論：地域社会の未来のための地域歴史遺産」（奥村弘・人文学研究科教授）

② 4/17「歴史系博物館資料論：博物館の現状と課題」（古市晃・人文学研究科准教授）

③ 4/24「地域文献資料論」（木村修二・人文学研究科学術研究員）

④ 5/1「現代資料論」（佐々木和子・地域連携推進室学術研究員）

⑤ 5/8「災害資料論」（吉川圭太・人文学研究科特命講師）

⑥ 5/22「地域歴史遺産の救出」（川内敦史・人文

学研究科特命講師)

⑦ 5/29 「現代における地域社会の成り立ち—博物館を取り巻く政治社会状況—」(河島真・人文学研究科准教授)

⑧ 6/5 「まとめと試験」(市沢哲・人文学研究科教授)

〈前期第2部・第2クォーター〉地域歴史遺産論 (2) 活用論

⑨ 6/12 「地域歴史資料学とは何か」(市沢哲・人文学研究科教授)

⑩ 6/19 「地域文書館(史料館)論」(河野未央・尼崎市立地域研究史料館)

⑪ 6/26 「大学史資料と史料室」(野呂理栄子・神戸大学附属図書館大学文書史料室室長補佐)

⑫ 7/3 「文学資料と文学館」(井上勝博・芦屋市谷崎潤一郎記念館学芸員)

⑬ 7/10 「歴史遺産・歴史資料の活用と大学の果たす役割」(坂江渉・兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室研究コーディネーター)

⑭ 7/24 「自治体史編集事業と地域資料」(岩城卓二・京都大学人文学研究所准教授)

⑮ 7/31 「地域歴史遺産とまちづくり」(前田結城・人文学研究科学術研究員、上田脩・丹波市棚原自治会PU事業推進委員会)

⑯ 8/7 「書き残すことの意味」(大槻守・香寺町史研究室主宰) ※台風接近にともなう警報発令のため、休講

〈後期第I部・第3クォーター〉地域文化財論

(1) 兵庫県内の文化財

① 10/6 「序論—地域の歴史遺産とその保全—」(奥村弘・人文学研究科教授)

② 10/13 「文化財とはなにか」(村上裕道・兵庫県教育委員会事務局参事兼文化財課長)

③ 10/20 「地域の文化財の発見」(黒田龍二・工学研究科教授)

④ 10/27 「兵庫県内の地域の文化財—埋蔵文化財とはなにか—」(山下史朗・兵庫県教育委員会事務局文化財課副課長兼文化財班長)

⑤ 11/10 「兵庫県内の地域の文化財—史跡・文化的景観—」(岡崎正雄・元兵庫県立考古博物館事

業部長)

⑥ 11/17 「兵庫県内の地域の文化財—仏像を中心に—」(神戸佳文・兵庫県立歴史博物館館長補佐)

⑦ 11/21 「兵庫県内の地域の文化財—近代化遺産を中心に—」(足立裕司・工学研究科名誉教授)

⑧ 11/24 「まとめと試験」河島真

〈後期第II部・第4クォーター〉地域文化財論 (2) 保存・活用論

⑨ 12/8 「景観復元とまちの形成—地図、地形環境と土地の履歴—」(菊地真・人文学研究科准教授)

⑩ 12/15 「遺産の保存をめぐる—農業と農耕文化を中心に—」(堀尾尚志・農学研究科名誉教授)

⑪ 12/22 「大規模自然災害と文化財救出、その効果について」(内田俊秀・京都造形芸術大学名誉教授)

⑫ 1/5 「地域歴史遺産の保全・継承と活用を考える—襖の下張り資料—」(尾立和則・前京都造形芸術大学教授)

⑬ 1/12 「歴史的建造物の保存・修復」(足立裕司・工学研究科名誉教授)

⑭ 1/19 「博物館運営と歴史遺産の活用」(山地秀俊・神戸大学経済経営研究所教授) ※講師都合により休講

⑮ 1/26 「都市景観とまちづくり」(三輪康一・工学研究科教授)

⑯ 2/2 「障がい者にやさしい歴史遺産の活用」(高田哲・保健学研究科教授)

〈全体を通して〉

昨年度に引き続き、基礎論Aを「地域歴史遺産」のうち、主として文献資料にかんする講義とし、基礎論Bをそれ以外の「地域歴史遺産」、すなわち歴史的建築物、医術工芸埋蔵文化財、農業遺産、都市景観等に関わる講義として編成した。

Aの講義は市澤が、Bの講義は河島が統括した。また、毎回の講義には、原則として井上がコーディネーターとして参加し、講師と受講生のやりとりや質疑応答等を受け持った。これにより全体としての講義の趣旨やねらいがある程度伝わったと考えられる。受講生は学部・大学院を含めて、Aが約50名、Bが約15名で、文学部以外の学生・

大学院生の受講生も多かった。

(文責・井上舞)

2. 地域歴史遺産保全活用演習A・B(地域歴史遺産活用演習)

8月30日(水)から9月1日(金)まで、神戸大学大学院農学研究科・篠山フィールドステーションにおいて、地域歴史遺産保全活用演習A(学部向け)、地域歴史遺産活用演習(大学院博士前期向け)の授業を行った。これは、主に近世・近代の古文書の整理・読解を通じて、地域歴史遺産を基礎とするまちづくり、村おこしについて考える授業で、市民も参加して毎年実施しているものである。今年度は昨年度に引き続き中西家文書の目録の点検を行うことを通して、特に目録作成の方法を身につけるとともに、新たに篠山市立図書館と連携して図書館所蔵文書の調査と目録作成を行った。また、初学者に対しては古文書の取り扱い方、目録の取り方、また文書の読解についての基礎的な講座を並行して実施した。参加者は学生31人(大学院生を含む)、教員4人、研究員等1人であった。

また、2月15日(木)と16日(金)には、三木市の旧玉置家住宅において、地域歴史遺産保全活用演習B(学部向け)、地域歴史遺産活用演習(大学院博士前期向け)、地域歴史遺産活用企画演習(大学院博士後期向け)の授業を行った。趣旨は9月の授業と同じである。今年度は三木市内の吉祥寺文書の整理と目録作成を行った。また、初学者に対しては今回も、古文書の取り扱い方、目録の取り方、また文書の読解についての基礎的な講座を並行して実施した。参加者は学生39人(大学院生を含む)、教員4人、研究員1人であった。

(文責・河島真)

地歴科教育論D

「資質の高い教員養成推進プログラム」として採択され、2006～2007年度に実施した「地域文化を担う地歴科高校教員の養成」以来、現在まで継続してきている兵庫県立御影高校との連携事業を、今年度も引き続き実施した。センター関係教員が指導する「地歴科教育論D」では、御影高校総合人文コースの課題学習を指導することを通じて、地域文化を担う社会科・地歴科教員の実践力を身に付ける授業を行った。

課題学習の成果は10本の報告にまとめられたが、このうち①「子育てしやすい“まちづくり”って?」、②「集まれ!地域の居場所へ～こども食堂から広げる輪～」、③「地域と自然の共生とは～住吉川のホタルの放流から考える～」、④「神戸ノートは神戸を救えるか～神戸ノートから考える人口流出防止策～」の4つの研究が11月18日(土)に行われた関西学院大学総合政策学部主催のリサーチフェアに参加し、②が実行委員会賞を受賞した。

また、受講生の中から1名が、2月19日(月)に影高校2年生のクラスで「日本史」の実習授業を行い、同校教員の指導を受けた。荘園制をテーマとし、史料を駆使してその構造を理解させるとともに、最新の研究成果を紹介して史料から考えることの重要性を強調する授業となった。

(文責・河島真)

特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業を定着・普及させる活動

2010～2012年度特別研究「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業で開発した、地域歴史遺産を

活用できる人材育成プログラムを、普及・定着を図り、2013年度より「まちづくり地域歴史遺産活用講座」とそのオプションプログラムである「古文書解読初級講座」を実施している。

1. まちづくり地域歴史遺産活用講座

本講座は、歴史文化を地域づくりに活用し、次世代に残してゆくために、その担い手となる人材の育成が重要という考えのもと、年に2回、大学と地域とで開催してきたものである。今年度は、5月に地域開催の講座、10月に神大開催の講座を開催した。なお、本稿締め切り後の、3月3日には三木市でも講座を開催するが、これは本来平成30年度地域開催分として企画されるべきものだが、協議の結果、本年度末に前倒し開催となるものである。この三木市開催については、次年度の報告書で報告を行う。以下、朝来市開催と神大の開催のスケジュールを掲げておく。

2016年10月15日(土)・16日(日)、文学部公開講座として一般市民向けに「まちづくり地域歴史遺産活用講座」を開催した(主催:人文学研究科・地域連携センター、共催:兵庫県教育委員会・COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会)。10月開催の講座は、大学開催講座で、今回の受講者は11名であった。なお今年度の地域開催は都合により年度内開催が困難となり、平成29年4月ないし5月に朝来市において開催する予定であるが、昨年度報告書原稿の締切後の2016年3月13日(日)には姫路市香寺町で開催しているので、ここで今年度大学開催分と併せて、下にスケジュールを示しておく。

①地域開催(2017年度)

日程:2017年5月21日(日)

会場:朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」体験学習室(朝来市山東町大月91-2)

主催:朝来市

共催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

後援:兵庫県教育委員会、COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会

近年各地で、地域歴史遺産を活用したまちづくりの取り組みが、住民自身の手でおこなわれています。この講座は、こうした取り組みに関心を持つ市民のみならず、地域の歴史についての考え方や見方を学ぶ機会を提供する試みです。

「こういう考え方がある」「こういうこともできる」など、地域の歴史に関心を持って、地域づくりに役立てていく入口になればと考えています。



まちづくり地域歴史遺産活用講座
in 朝来

2017年5月21日(日)

会場: 朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」体験学習室
(朝来市山東町大月91番地2)

募集人数: 20名 ※定員に達し次第締め切ります

受講料 無料

——講座スケジュール——

10:00～10:05 事務連絡
10:05～11:05 開講あいさつ・地域歴史遺産とまちづくり(60分)
——奥村弘・神戸大学大学院人文学研究科教授

11:05～11:10 休憩
11:10～12:10 地域史の見方～朝来の古代史を事例に(60分)
——古市晃・神戸大学大学院人文学研究科准教授

12:10～13:00 昼休み
13:00～13:10 参加者自己紹介
13:10～14:00 地域歴史遺産活用事例の紹介(50分)
——井上舞・神戸大学大学院人文学研究科研究員

14:00～14:05 休憩
14:05～15:35 古文書の取り扱い方と読解のポイント(90分)
——木村修二・神戸大学大学院人文学研究科特命講師

15:35～16:00 アンケート記入
16:00～16:50 意見交換会
16:50～16:55 修了証授与
16:55～17:00 閉講あいさつ
——田畑基・朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」館長

お問い合わせ・お申し込み先

〒669-5153 朝来市山東町大月91番地2
朝来市埋蔵文化財センター「古代あさご館」
TEL 079-670-7330 FAX 079-670-7333
E-mail maizoubunkazai@city.asago.lg.jp

■開講時間 9時～17時
■休館日 月曜日

スケジュール

3月13日(日)

10:05～11:05 開講あいさつ・地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)

11:10～12:10 地域史の見方～朝来の古代史を事例に(古市晃)

13:00～13:10 参加者自己紹介

13:10～14:00 地域歴史遺産活用事例の紹介(井上舞)

14:05～15:35 古文書の取り扱い方と読解のポイント(木村修二)

15:35～16:00 アンケート記入

16:00～16:50 意見交換会

16:50～16:55 修了証授与

16:55～17:00 閉講あいさつ(田畑基・「古代あさご館」館長)

②大学開催

日程:2017年10月14日(土)・15日(日)

会場:神戸大学文学部B棟小ホール

主催:神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

共催:兵庫県教育委員会・COC+ひょうご神戸

近年各地で、地域歴史遺産を活用したまちづくりの取り組みが、住民自身の手でおこなわれています。この講座は、こうした取り組みに関心を持つ市民のみなさんに向けて、地域の歴史についての考え方や見方を学ぶ機会を提供する試みです。「こういう考え方がある」「こういうこともできる」など、地域の歴史に関心を持ったり、地域づくりに役立てていく入口になればと考えています。

2017年 受講者募集 **受講料 無料**

定員：20名
応募が定員を超えた場合は抽選をおこないます

2017年 **10月14日(土)・15日(日)**
会場：神戸大学文学部 (B棟小ホール)

お問い合わせ先
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
TEL・FAX 078-803-5566
e-mail: area-c@lit.kobe-u.ac.jp
http://www.lit.kobe-u.ac.jp/area-c/

主催：神戸大学大学院人文学研究科、同地域連携センター
共催：兵庫県教育委員会、COC+ひょうご神戸プラットフォーム協議会
後援：神戸市教育委員会、神戸市灘区

【応募条件】 2日間の全日程を受講できる方。
【申込方法】 裏面の申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXにてお申し込みいただくか、または返信用封筒 (B2 印切手貼付、返信先住所記入) を添えて、下記まで郵便でお送りください。また、必要事項をご記入の上、eメールでお申し込みいただいても結構です。

FAX番号 078-803-5566
eメールアドレス area-c@lit.kobe-u.ac.jp
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター

【申込締切】 2017年10月2日(月) 必着 (17:00 受付終了)

神戸大学文学部公開講座
まちづくり地域歴史遺産活用講座 2017

13:00～14:00 地域の歴史の見方・近現代(河島真)

14:10～15:20 災害から地域史料を守る(加藤明恵)

15:20～15:50 アンケート記入

15:50～16:50 意見交換会

16:50～17:00 修了証授与・閉講挨拶

(文責・木村修二)

2. 古文書解読初級講座

10月31日、11月14日、21日、28日、計4回の日程で神戸大学人文学研究科学生ホールにて開催した。これまでの「まちづくり地域歴史遺産活用講座」の受講生に案内し、21名の参加者があった。講師は河島裕子氏(神戸大学非常勤講師)が務め、「地元の資料を教材にされていたので、親近感を持って勉強できた」、「今回は水害という出来事をテーマに読んだのでイメージしやすかった、もっと読んでみたい」と大好評であった。

(文責・横山朋子)

プラットフォーム協議会

後援：神戸市教育委員会・神戸市灘区

スケジュール

10月14日(土)

10:00～10:05 事務連絡

10:05～11:15 地域歴史遺産活用事例の紹介

(井上舞)

11:20～12:20 地域の歴史の見方・古代(高橋明裕・立命館大学非常勤講師)

13:15～13:30 参加者自己紹介

13:30～14:30 挨拶・地域歴史遺産とまちづくり(奥村弘)

14:40～15:40 地域の歴史の見方・中世(市沢哲)

15:50～16:50 地域の歴史の見方・近世(木村修二)

10月15日(日)

10:00～11:00 歴史資料取り扱いの基礎 I (木村修二)

11:10～12:00 歴史資料取り扱いの基礎 II (木村修二)